



2016

社会・環境レポート

e
arth

双信電機株式会社
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

双信パワーテック株式会社

双信デバイス株式会社

立信電子株式会社

双信エレクトロニクスマレーシア

事業概要

2016 社会・環境レポート

目次

■事業概要ほか

会社概要・事業拠点・財務ハイライト	1
事業領域と関連製品	2
社長メッセージ・コーポレートガバナンス	3
企業行動指針	4

■社会性報告

人間性の尊重、 快適な職場環境の確保	5
地域社会との協調、 社会貢献活動の推進	6

■環境報告

環境マネジメントシステム	7
環境保全活動の概要	8
環境会計	9
物質収支・含有化学物質管理	10
環境負荷低減の取組み	11
省エネ対策事例	12
資源活用の取組み	13
アンケート	14

編集方針

このレポートは双信電機グループが、日本ガイシグループの一員として、社会・環境にかかわる取り組みを報告しています。

【対象期間】

2015年4月～2016年3月

【対象範囲】

双信電機株式会社
双信パワーテック株式会社
双信デバイス株式会社
立信電子株式会社
双信エレクトロニクスマレーシア
2016年6月発行

■会社概要 (2016年3月末現在)

社名：双信電機株式会社
英文名 SOSHIN ELECTRIC CO.,LTD.
URL <http://www.soshin.co.jp>

東京本社 〒105-0023
東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F
Tel.03-5730-4500 Fax.03-5730-4504

創業：1938年（昭和13年）12月
設立：1944年（昭和19年）4月
資本金：3,806百万円（2016年3月末現在）
従業員数：787名（2016年3月末現在）

■事業拠点

【国内営業拠点】

東京・営業本部
大阪営業所 / 名古屋営業所 / 佐久営業所 / 九州営業所

【国内製造・技術拠点】

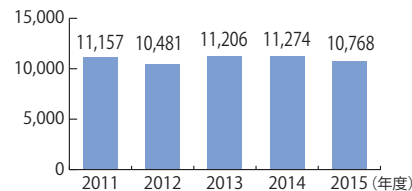
浅間工場、千曲技術センター

【グループ会社】

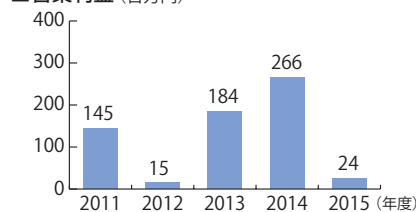
双信パワーテック株式会社
双信デバイス株式会社
立信電子株式会社
双信エレクトロニクスマレーシア
双信エレクトロニクス・オブ・アメリカ
双信エレクトロニクスヨーロッパ
双信華科技（深圳）有限公司
台湾双信電機股份有限公司

■財務ハイライト

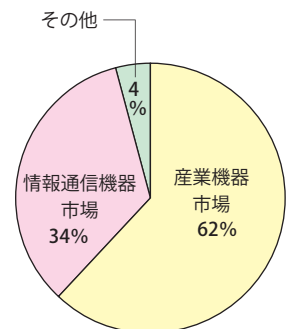
■売上高(百万円)



■営業利益(百万円)



■市場別売上高比率 (2015年度)



事業領域と関連製品

双信電機グループは産業機器市場と情報通信機器市場で時代のニーズとお客様の期待に応える電子部品を提供しています。

産業機器市場

・ノイズ関連市場

電子機器から発生する電磁波ノイズは機器の誤動作や人体への悪影響を招くことがあり、このノイズを抑制・遮断するノイズ対策製品の需要が高まっています。

当社のノイズ対策製品は電子機器の省エネ装置として普及しているインバーターに広く使われており、太陽光・風力などの再生可能エネルギー分野にも用途を広げています。

また、大型電波暗室やオンサイト（出張）による測定・診断など、トータルのサポートでお客様のニーズにお応えしています。

・カーエレクトロニクス、鉄道

高い信頼性が要求される自動車関連に厚膜印刷基板が使用されています。普及が進むプラグインハイブリッドカー（PHEV）や電気自動車（EV）用の急速充電機器などでは、ノイズフィルタ、コンデンサなどが使用されています。

また、鉄道車両や鉄道運行管理システムでは各種フィルタやコンデンサが安全安心を支えています。



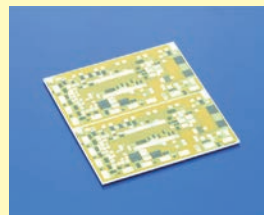
太陽光発電用ノイズフィルタ



ノイズ対策用リアクトルコア



ノイズ測定診断車



厚膜印刷基板



フィルムコンデンサ



ノイズフィルタ

情報通信機器市場

・情報通信インフラ

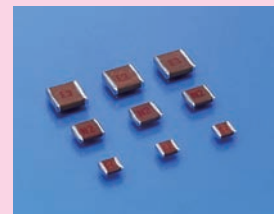
カプラなどの高周波部品やフィルタ、コンデンサが携帯電話基地局などの情報通信システムを支えています。

・情報通信端末

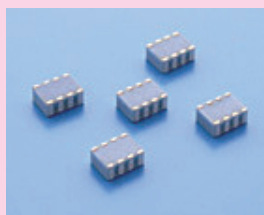
進化し続けるスマートフォンやタブレット端末の無線 LAN やブルートゥース通信モジュール等に積層誘電体フィルタが採用されています。



LC フィルタ



チップマイカコンデンサ



カプラ



積層誘電体フィルタ

社長メッセージ



代表取締役社長
上岡 崇

双信電機グループでは事業活動を通じた社会への貢献として、省エネに資するインバータ機器や鉄道等への部品の供給を行う一方、生産活動においても生産性の向上や太陽光発電による工場への一部電力供給など環境負荷物質の低減を推進しており、低炭素社会の構築に寄与しています。

また、ますます強まる企業のコンプライアンスへの要求に対しても、社外取締役の登用や社外監査役の採用等による社外からの目による企業活動への指摘、提言を積極的に受け入れる体制を整えています。社内の法令違反の有無についても、アンケートやヘルプライン等を通じて情報収集し、早期に事案に対応できる体制を取っています。

社会貢献の点につきましても、4月に発生した熊本地震に対して支援金を拠出致しました。また生産拠点がある地域においてスポーツ大会を実施するなど積極的な地域との交流を行っています。

今後も企業と社会との密接な関わりの中で、企業が果たすべき役割、責任について十分に配慮した企業活動を推進して参ります。

◆コーポレートガバナンス

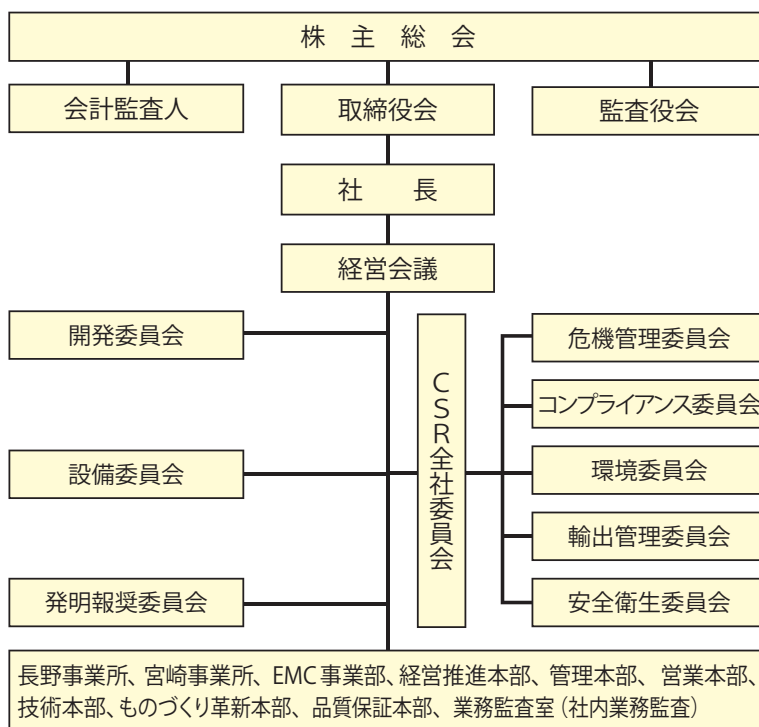
双信電機グループは、企業価値の向上を図ることを経営上の重要な課題の一つと位置づけております。

コーポレート・ガバナンスの強化は、事業活動の適法性と経営の透明性を高め、会社に関わる全てのステークホルダー（株主、顧客、従業員、取引先、地域社会）から信頼される企業となることに繋がり、企業価値の向上に資する重要な施策と考えております。

その実現に向け、経営組織体制の整備、経営効率の向上、経営監視機能の強化といった取締役会、監査役会等の責務を明確にし、法令順守の徹底に努めております。

また、株主の権利、平等性の確保と対話の促進により、相互に信頼できる関係を築きます。

ガバナンス体制





双信電機グループ企業行動指針

I 企業理念の実現

【1】より良い社会環境に資する商品の提供

長期のグローバルな視点に立ち、地球環境を守り社会の安全・安心を実現する商品やサービスの提供を通じて、新しい価値の創造に取り組みます。

品質と安全性の追求により、お客様と社会からの信頼を獲得します。

II 企業活動のあり方

【2】企業情報の開示

経営の透明性を高め、日本ガイシグループに対する社会の信頼を得るために、経営情報、財務情報、商品・サービスに関する情報など、広く社会が求める情報を正確かつタイムリーに発信します。

【3】コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント

各国、地域の法令やルールを守り、国際間の取決めを尊重して、コンプライアンスを徹底します。誠実で高い倫理観のある人材を育成します。また、内部統制システムの構築とリスクマネジメントの実践を通じて、会社の資産や信用、第三者の権利を守ります。

【4】人間性の尊重、快適な職場環境の確保

人材の採用、処遇は公正・公平に行い、安全・快適で、家庭と両立する働きやすい職場環境を提供します。

多様な人材が挑戦できる場と機会を設け、知識や技術の習得を通じて人材の成長を支援します。職場におけるいじめ、差別、ハラスメントなど人権に反する行為の発生を防止し、違反行為があった場合には迅速に適切な対応をとります。

【5】公正、自由、透明な取引の実践

対等な良きパートナーとして、取引先との共存共栄を目指し、公正、自由、透明な取引を行います。また、日本ガイシグループのサプライチェーン全体で、企業の社会的責任を果たす取り組みを推進します。

III 社会の一員として

【6】地球環境の保全

事業活動を行うすべての拠点、すべてのプロセスで、率先して環境負荷の低減に取り組み、地球環境の保全に貢献します。地域の環境保全活動に協力し、従業員の取り組む活動も積極的に支援していきます。

【7】地域社会との協調、社会貢献活動の推進

各国、地域の社会的課題に関心を持ち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に積極的に取り組みます。

【8】ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会の方々など、すべてのステークホルダーとの対話を通じて、日本ガイシグループへの理解を広げるとともに、寄せられた意見に基づいて会社の活動をレビューし、社会的責任を果たすための取り組みに活かしていきます。

社会性報告

人 間性の尊重、快適な職場環境の確保

◆雇用・採用に関する基本方針

双信電機グループでは事業の中長期成長を見据えた人員計画を立て、雇用の安定に努めています。新卒の計画的採用を行うと共に、社内ローテーションを積極的に展開し、必要な能力・経験を持った人材の適正配置を進め、社員の働き甲斐、働き易さを意識した活動を推進しております。

◆個性と多様性の尊重

障害者雇用については法定雇用率 2.0%を超える 2.52%（2016 年 4 月実績）となっています。また、定年退職後の再雇用制度を導入し、フルタイム、パートタイムなど個人のセカンドライフプランに合わせた柔軟な勤務形態を用意しました。

◆ワークライフバランスの実現

女性社員の多くが産前産後休暇や育児休暇制度を利用し、職場復帰を果たしています。

このほか、リフレッシュ休暇制度や計画有給取得制度を活用し、心身のリフレッシュを図れる制度を整えています。

◆安全衛生

双信電機グループでは、従業員の安全及び健康を確保し、快適な作業環境の形成を促進すると共に、業務災害ゼロを目指して安全衛生活動を最優先に積極的に展開しています。

主な活動としては、危険要因の顕在化を目指した活動を行っており、全国労働安全週間と全国安全衛生週間にあわせ、ヒヤリハット活動・危険予知トレーニングを実施し、従業員からの提案に対処し、大きな成果を上げています。更に拠点相互の設備事故未然防止相互パトロールも半期ごとに実施し、安全を確実なものにしています。

また、本年度よりストレスチェックを実施し従業員の健康増進を目的に、保健師を活用した健康管理体制も充実させ、従業員の健康維持に努めています。

このような活動により、双信電機グループにおいては重大な業務上災害は過去 5 年間発生していません。引き続き従業員の安全確保と健康維持を最優先に活動を継続していきます。

◆こころの健康づくり

社員間のコミュニケーションアップを目的として、新入社員、管理職、各階層別社員に対し研修会を実施しています。また、その中でメンタル不調に関する知識習得やセルフケア、ラインケアについても学ぶ体制を整えています。

双信電機グループとしては、産業医、顧問医、保健師、契約カウンセラー、産業保健スタッフが一丸となって社員の心身の健康づくりに尽力しています。



管理職研修



設備事故未然防止相互パトロール

地域社会との協調、社会貢献活動の推進

国際ボランティアデー 社会貢献一斉アクション

東京本社にて入居するビルのイベント活動に賛同し、フェアトレード商品の販売を行い開発途上国の生産者支援に参加しました。
※フェアトレードとは、適正価格で商品を購入することで、生産者の生活を支援する仕組みです。



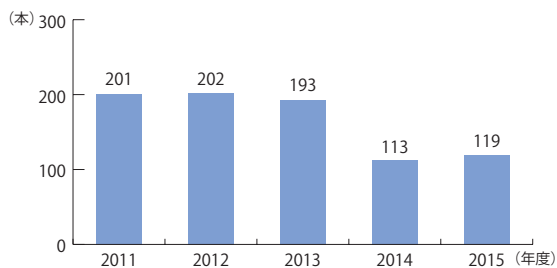
双信電機杯バレーボール大会

宮崎地区では第30回双信電機杯バレーボール大会を開催しました。



エコキャップ運動

2008年より活動を始め、2015年度は119本のワクチン数となりました。



双信電機杯テニス大会

長野地区では第15回双信カップテニス大会を開催しました。



インターンシップの受け入れ

長野・宮崎地区において、地元の高校生が工場見学・体験をしました。



高齢者総合支援センターの避難訓練参加協力

双信パワーテックにて近隣の高齢者総合支援センターの避難訓練に協力しました。



クリスマスプレゼント

双信パワーテック・双信デバイスそれぞれ近隣の保育園にクリスマスプレゼントを贈りました。



環境報告

環境マネジメントシステム

双信電機グループ環境方針

1. 法令・協定・顧客との取り決めおよび自主基準を順守する。
2. 環境目標を設定し、組織的・継続的な環境負荷低減活動を地域社会とともに推進する。
3. 環境に配慮した製品の開発・設計・製造販売を行う。
4. 環境汚染の予防処置と監視を行う。
5. 教育・啓発活動を進め、従業員および事業にかかわる人々すべての役割・責任についての自覚高揚を図る。

◆環境保全活動の推進体制

環境保全に関する双信電機グループの方針・施策は、環境管理担当役員を委員長とする「環境委員会」で意思決定を行います。ここで決定した方針・施策は、各サイトの工場長・拠点長、環境管理責任者を通じて全社に展開されます。

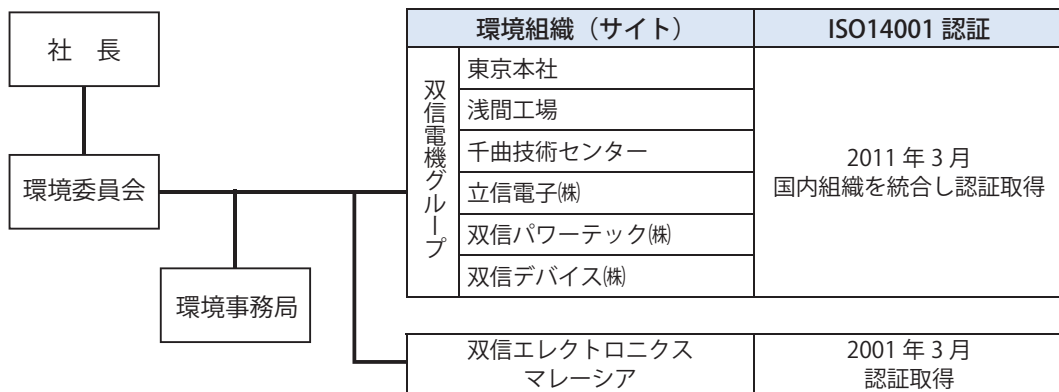
環境組織の活動として、半期ごとに開催される環境委員会の他、環境会議・エネルギー管理会議を毎月交互に開催し、CO₂排出量や産業廃棄物排出量などを把握、目標の進捗管理のほか環境に関する情報交換などを行い、環境保全活動を継続的に推進しています。

◆ISO14001 認証・環境監査

双信電機グループは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を2000年に浅間工場で取得し、2002年に国内全製造部門で、2011年には本社（管理・営業部門）を含め、国内組織を統合した認証を取得しています。（双信エレクトロニクスマレーシアはマレーシア国内の別認証機関にてISO14001を取得しています。）

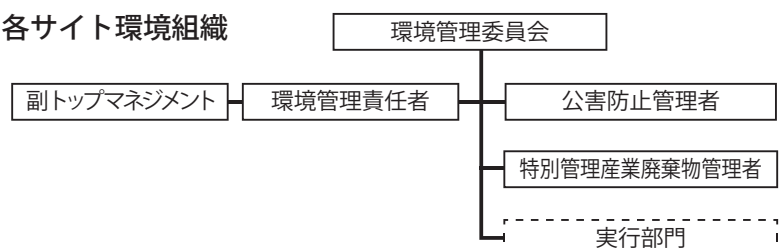
環境監査は認証機関による外部監査、環境管理室による環境査察、実行部門が行う内部環境監査を実施しています。（2016年3月末現在の内部環境監査員は183名です。）

環境保全組織



ISO14001 認証機関による監査

各サイト環境組織



環境保全活動の概要

双信電機グループの環境活動は、環境目的とそれを達成するための環境目標を設定し、自主的な環境保全に努めています。

◆ 2015 年度活動報告および 2016 年度目標

【CO₂ 排出量】

2015 年度の環境負荷低減活動としての CO₂ 排出量は、目標を達成しました。

2016 年度は CO₂ 排出削減の取り組みとして、各サイトの使用電力量を詳細に現状把握の上分析を行い、照明の LED 化を含む省電力設備への段階的な変更を検討します。

生産性向上、稼働設備ロス・負荷低減、省エネパトロールによる無駄の排除につきましても、継続して実施していきます。

【産業廃棄物排出量】

2015 年度は工場内レイアウトなどによる廃棄物の発生が無く、計画的な廃棄物管理を実施した事で目標を達成しました。今後も計画的に廃棄物排出量の管理を実施していきます。

【含有化学物質の管理強化】

RoHS 指令ではフタル酸エステル類が規制の対象として決定、REACH 規則においても管理対象物質が年々追加されており、製品に使用する物質への制限・管理が厳しくなっています。

2016 年 4 月に双信電機グリーン調達ガイドラインを第 6 版に改版し、最新の規制情報に合わせた管理が出来る様にしました。それに基づき、製品構成部材の含有化学物質管理を目的に、仕入先の環境品質監査を実施し、グリーン調達活動を進めています。また、グループ内においては、含有化学物質に関する監査を環境査察時に実施し、管理強化を図っています。

【環境に関する苦情・事故の有無】

2015 年度は環境に関する苦情・事故は発生しておりません。

2016 年度も苦情・事故が発生しない様に、地域環境保全に向けた活動を継続していきます。

◆ 主な環境保全活動

項目	2015 年度実績			2016 年度目標
	目標	実績	自己評価	
環境マネジメントシステム (ISO14001)	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育と啓蒙活動を継続します。 環境マネジメントシステム 2015 年版への移行を準備します。 環境法規制を順守します。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の周知、環境目標などの環境教育を実施しました。 セミナーへ参加し、環境マネジメントシステム 2015 年版に関する情報入手しました。 環境法規制の順守を継続しています。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育と啓蒙活動を継続します。 環境マネジメントシステム 2015 年版の 2017 年移行審査受審に向けて、具体的な活動を展開します。 環境法規制を順守します。
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量を 2014 年度比 6.0% 削減します。(CO₂ 原単位排出量を 2014 年度比 5.6% 減にします) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量は 2014 年度 7,709t に対し、2015 年度は 7,505t と 2.6% 減少しました。(CO₂ 原単位排出量は 2014 年度比 6.2% 増加しました) 	×	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量を 2015 年度比 10.3% 削減します。(CO₂ 原単位排出量を 2015 年度比 18.6% 減にします。)
生物多様性保全 および 廃棄物管理活動	<ul style="list-style-type: none"> 野生生物の保護を行っている NPO 法人の活動を支援します。 廃棄物排出量を 2014 年度比 2.5% 削減します。 	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人への支援を実施しました。 廃棄物排出量は 2014 年度 159t に対し、2015 年度は 123t と 22.6% 減少しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人の活動支援を継続します。 廃棄物排出量を 2015 年度比 16.3% 増以下にします。
化学物質の適正管理 および 有害化学物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光 X 線分析装置による検査を継続します。 仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査対象の受入部材の検査を実施し問題ないことを確認しました。 仕入先環境品質調査を計画通り実施しグリーン調達を推進しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光 X 線分析装置による検査を継続します。 双信電機 グリーン調達ガイドラインを改訂します。 仕入先環境品質調査を実施、グリーン調達を推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> 全社の鉛フリー識別順守状況を継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境査察を実施し順守状況を確認しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 全社の鉛フリー識別順守の確認を継続します。

環境報告

環境会計

◆環境会計の導入

双信電機グループは、環境保全目的として支出した金額を投資額と費用でとらえ、それらによる効果を定量的に把握するために2001年度より環境会計を導入しています。

集計にあたっては、環境省ガイドラインに準じて2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の実績を集計しました。

◆環境保全対策にともなう経済効果

2015年度の経済効果は2,233万円で、地球環境保全効果が前年度比55.6%減、資源循環効果が前年度比33.3%減となりました。

◆環境保全コスト

双信電機グループにおける2015年度環境保全コストの内、投資額では省エネ型設備の導入、機種の入替えなどを行い2,424万円投資し、前年度比40%増となりました。費用額全体としては3,084万円と前年度比9.1%減、主に資源循環コストが前年度比31.8%減となりました。

◆環境保全コストおよび経済効果

単位：万円

分類	主な取組み内容	投資額		費用額		経済効果	
		2014年度	2015年度	2014年度	2015年度	2014年度	2015年度
公害防止コスト	公害防止のために必要な投資及び費用	0	0	188	203	-	-
地球環境保全コスト	省エネ設備導入等CO ₂ 削減のために必要な投資及び費用	1,728	2,424	79	71	1,409	775
資源循環コスト	節水等資源効率利用、廃棄物の削減・リサイクル・処理・処分するために必要な投資及び費用	0	0	1,546	1,054	2,187	1,458
上・下流コスト	事業活動に伴う上流下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	0	0	0	0	-	-
管理活動コスト	ISO14001認証取得・維持、環境教育、環境負荷の監視測定等環境保全に必要な費用及び人件費	0	0	724	922	-	-
研究開発コスト	環境負荷削減の研究開発・企画設計、環境保全に資する製品開発・研究に必要な費用及び人件費	0	0	0	0	-	-
社会活動コスト	自然保護、緑化、地域の環境支援、環境情報の公表、環境広告に必要な費用	0	0	857	834	-	-
環境損傷コスト	土壌汚染による改良、自然破壊修復等に必要な費用	0	0	0	0	-	-
合計		1,728	2,424	3,394	3,084	3,596	2,233

物質収支(インプット - アウトプット)

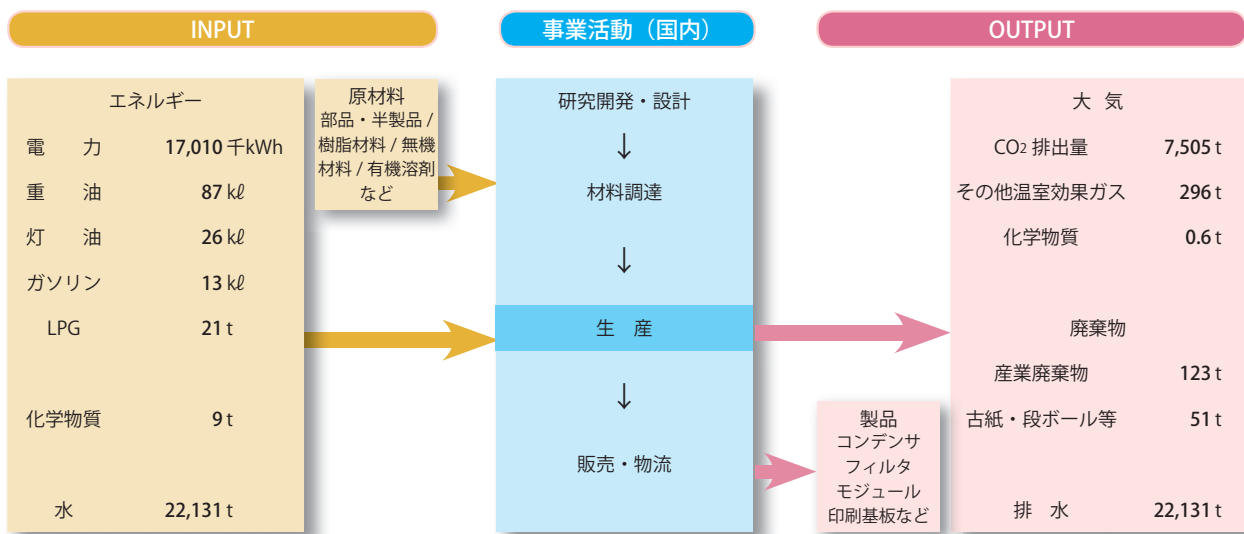
双信電機グループの国内における事業活動に関して、インプットされた資源・エネルギーと生産された製品、廃棄物およびその他の排出物を示します。

インプット・アウトプットの概要

インプットとしては、事業活動に必要な部品、原材料、エネルギー、化学物質、水等によって構成されます。

アウトプットとしては、製品生産活動にともなうCO₂ 排出、排水、廃棄物等があります。

双信電機グループでは製品以外のアウトプットを削減するため、省エネ改善や資源枯渇の観点からインプットを極力削減する活動を行っています。



含有化学物質管理

◆含有化学物質調査

双信電機グループでは2006年度に得意先の要求による一部の製品を除き鉛フリー化を終了、その他の禁止物質も廃止し、RoHS指令への適合が完了しています。また、得意先様の製品含有化学物質調査依頼に対応するため、化学物質管理データベースを運用し、迅速に回答できる体制を整えています。

◆グリーン調達

双信電機グループでは環境負荷の少ない部品・材料の調達を進めており、2016年4月に「グリーン調達ガイドライン第6版」を発行し、仕入先様による積極的な取り組みとご協力をお願いしています。

この他、仕入先様への環境品質調査を実施し、化学物質管理に問題が無いことを確認しています。

◆蛍光X線分析

禁止物質を含有する恐れのある部品・材料については、社内で蛍光X線分析装置によるスクリーニング検査を実施し、非含有であることを確認しています。

環境報告

環境負荷低減の取組み

地球温暖化防止への対応として、省エネ等 CO₂ 排出量削減に取り組んでいます。

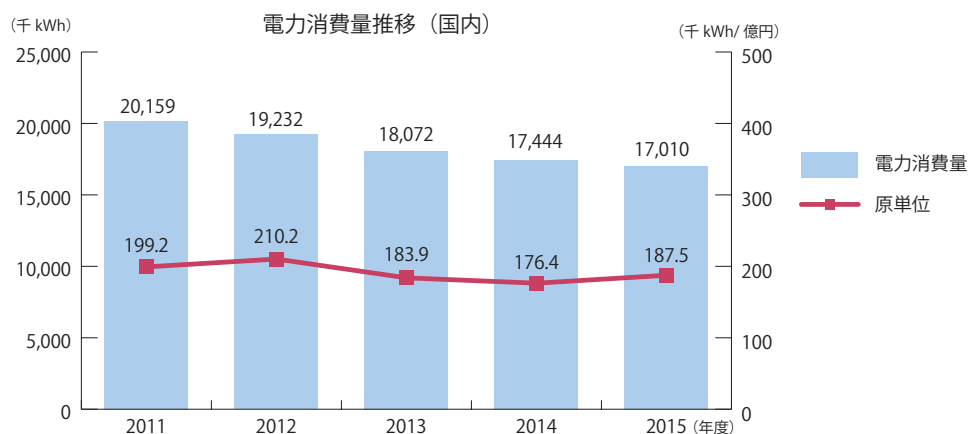
2015年度の国内電力消費量は、省エネ型機器の導入や節電・省エネパトロールによる対策の上積みにより、前年度比2.5%減となりました。また、電力消費量を売り上げて割った売上高原単位は、前年度比6.3%増となりました。

海外拠点の電力消費量は、前年度比12.8%増、売上高原単位は21.3%増となりました。

CO₂ 排出量はその9割以上が電力消費に起因しています。国内のCO₂ 排出量は前年度比2.6%減、売上高原単位は、前年度比6.2%増となり、海外拠点でのCO₂ 排出量は、前年度比12.8%増、売上高原単位は、前年度比21.4%増となりました。

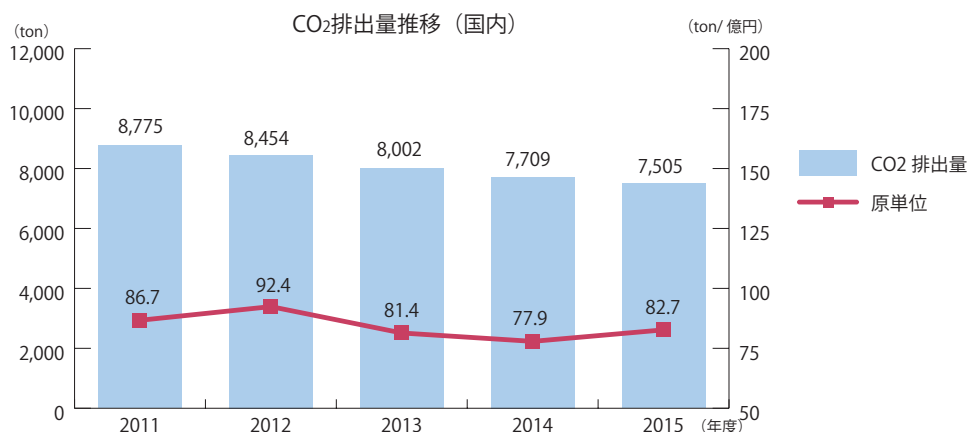
2016年度のCO₂ 排出量は、前年度実績に対し10.3%減を目標とします。

◆電力消費量



電力消費量推移 (海外)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
電力消費量 (千 kWh)	1,249	1,405	1,237	1,105	1,247
売上高原単位 (千 kWh/億円)	189.2	156.1	114.5	91.3	110.8

◆CO₂ 排出量

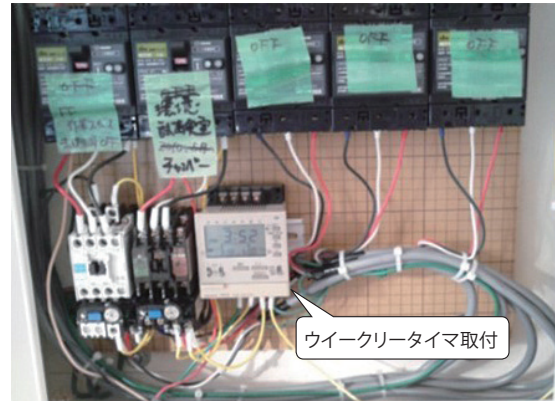


CO ₂ 排出量推移 (海外)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
CO ₂ 排出量 (t)	530	595	524	468	528
売上高原単位 (t/億円)	80.3	66.1	48.5	38.7	47.0

省 エネ対策事例

(1) 環境試験室の空調機排気ファン夜間休日停止制御による省電力化

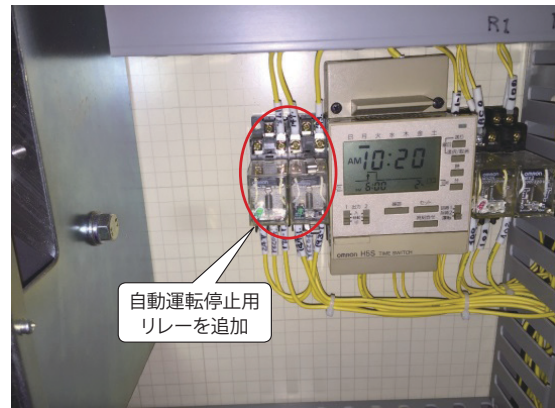
環境試験室の排気ファンは、作業後に手動で停止していたため、作業者が変わった時など、停止することが引き継がれずに停止を忘れてしまうことがあり、稼働に合わせた設定変更となっていました。シーケンサー（PLC）の週間タイマを取り付けて運転停止が自動で出来る様、効率的な稼働となる様に改善をしました。これにより75%減の省電力化をすることができました。



(2) クリーンルーム空調機省エネ運転による省電力化

クリーンルームは、夜間休日は作業していない事が多いので、夜間休日は湿度制御を切るようにしました。

これにより51%減の省電力化をすることができました。

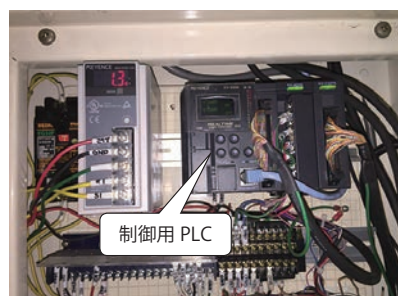


(3) 空調機排気ファン夜間休日自動停止による省電力化

排気ファンは手動で作業後停止していましたが、作業者が変わった時など、停止することが引き継がれずに停止を忘れてしまうことがありました。シーケンサー（PLC）の年間タイマで運転停止が自動で出来る様に改善をしました。

63%の電力を省電力化することができました。

※ 2015年版の継続。



環境報告

資源活用の取組み

双信電機グループは、環境保全の為、循環型社会の形成を重要視しています。グループ内の事業活動で排出される廃棄物を資源として捉え、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進して参ります。

また、法に基づいた処理が適正に行われる様に、行政に認可を受けた廃棄物処理業者とのみ委託契約を結び、マニフェスト（廃棄物管理表）の発行、処理記録を残しています。

廃棄物処理業者については、処理現場の定期的な現地視察を行い管理しています。

2015年度は9社10事業所を視察し、処理に問題が無いことを確認しています。

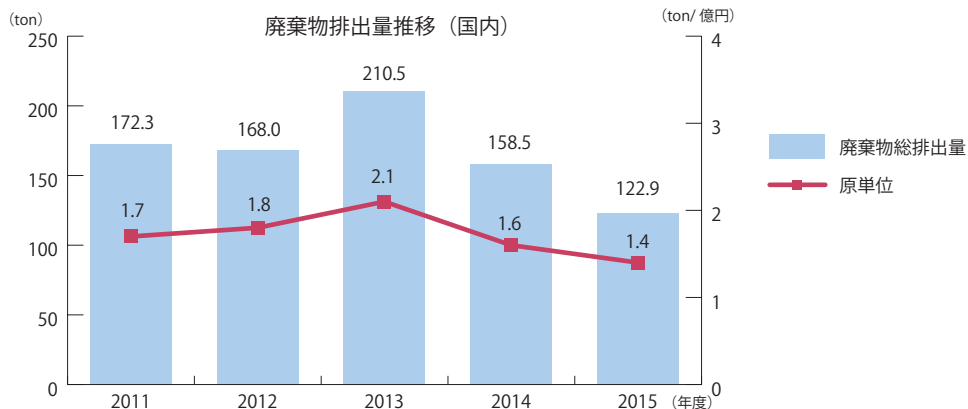
国内の廃棄物排出量は前年度比22.6%減、売上高原単位も12.5%減となりました。

2016年度の廃棄物排出量の目標は、前年度比16.3%増以下になる様にとし、削減に取り組んで参ります。



産廃業者現地視察風景

◆廃棄物排出量



廃棄物排出量推移（海外）	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
廃棄物排出量 (t)	3.7	3.8	7.6	7.0	9.4
売上高原単位 (t/億円)	0.6	0.4	0.7	0.6	0.8

TOPICS

◆ソラミール

双信電機が加盟している「有限責任事業組合（LLP）佐久咲くひまわり」は、佐久市が行うメガソーラー事業に貢献すると共に、地域で環境保全活動に取り組んでいます。

昨年度は加盟企業への還元として、太陽光発電を利用した環境に優しいLED街灯『ソラミール』の設置が行われました。

明るさは通常の街灯と遜色なく、“ストップ！温暖化”の一端を担う事が出来ています。



「2016 社会・環境レポート」アンケート

双信電機グループの「2016 社会・環境レポート」をお読み頂き、ありがとうございます。
この報告書について、是非ご意見ご感想をお寄せください。
頂いたご意見・ご感想は、今後の環境保全活動及び弊社レポート作成の参考にさせていただきます。

*以下の質問に該当する項目にを入れてください。

Q 1 弊社レポートをお読みになった感想をお聞かせ下さい。

1) 全体の印象について

良い

ふつう

悪い

2) わかりやすさについて

良い

ふつう

悪い

3) 内容について

良い

ふつう

悪い

Q 2 弊社レポートで特に興味を持たれた記事があればお聞かせ下さい。

() ページ テーマ ()

Q 3 環境保全活動や弊社レポートについてのご意見・ご感想をお願い致します。

ご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。差支えなければ下欄にもご記入お願いします。

*ご記入頂いた個人情報についてはアンケート記載の用途以外には使用致しません。

お名前： _____ 男・女 年齢 歳

ご住所： _____

ご職業・勤務先： _____

お手数ですが下記あてに FAX または E メールをいただければ幸いです。

送付先 **双信電機株式会社 環境管理室 宛**

Fax. 0267-68-4553 Tel. 0267-67-4580

E-mail:environment@soshin.co.jp

2016 社会・環境レポート



双信電機株式会社

SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

URL : <http://www.soshin.co.jp>

〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F

Tel: 03-5730-4500 Fax: 03-5730-4504

この報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先
環境管理室

Tel: 0267-67-4580 Fax: 0267-68-4553

E-mail: environment@soshin.co.jp

